

地球惑星科学委員会

地球・惑星圏分科会地球観測衛星将来構想小委員会（第26期・第2回）議事要旨

日 時：令和6年7月2日（火）13:00～15:00

場 所：オンライン会議（ZOOM）

出席委員：金谷有剛、佐藤薫、高薮縁、中島映至、古屋正人、村山泰啓、横山広美、伊藤進一、江口菜穂、榎本浩之、岡本幸三、岡本創、沖理子、笠井康子、河宮未知生、重尚一、杉山昌広、祖父江真一、高橋暢宏、永井信、中島孝、中島英彰、早坂忠裕、本多嘉明、溝端浩平（25名）

欠席委員：沖大幹、中村尚、ケオラ スックニラン、樋口篤志、増永浩彦（5名）

（以上敬称略、名簿順）

議 題

1. 録画の承認
2. 第1回会合の議事要旨確認
3. 話題提供「気候変動緩和策のための需要側対策の分析とリモートセンシング」（杉山委員）
4. 地球観測衛星将来構想小委員会の活動内容について
5. その他

議事録：

1. 録画の承認
録画することについて承認した。
2. 第1回会合の議事要旨確認
確認した。
3. 杉山委員による話題提供
杉山委員より「気候変動緩和策のための需要側対策の分析とリモートセンシング」について話題提供があった。主な内容は次のとおり。
 - ・緩和策は新しい分野であり、データが少ない。
 - ・省エネルギー化の推進や物質を少なく使うことでエネルギー消費を抑えられる。
 - ・衛星観測を用いた緩和策に関して、夜間光、太陽光発電＋機械学習を用いた研究がある。その後、議論が行われた。主な意見は次のとおり。
 - ・生態系サービスの概念も考慮する必要がある。

- ・温室効果気体を観測する衛星を排出量やインベントリーの評価に利用することは可能。
- ・効率的な社会にするためには衛星観測データを社会に受け入れてもらう必要がある。

4. 地球観測衛星将来構想小委員会の活動内容について

早坂副委員長より、資料5をもとに説明があり、その後、議論を行なった。

(1) 幅広い専門分野の委員から話題提供

今後の本委員会において、委員から多様な分野の話題提供を受けることについて了解された。

- ①社会経済
- ②気候変動
- ③生物多様性
- ④オープンサイエンス
- ⑤国際状況

①については本日、話題提供があった。他の分野の話題提供について委員から意見を募った。それを基に幹事会で次の話題提供者を決めることとした。

また、本件について次のような意見があった。

- ・①～⑤は、比較的古典的な切り口であるが、適応で災害などに利用され、応用分野で注目されている。上記をミックスし、利用の側面の切り口から議論する必要がある。
- ・サイエンスの発展+利用の側面からの議論が必要。
- ・今期は、より社会からの要請に応えることを視野に入れる必要があると考える。そのような観点での話題提供を期待したい。
- ・学会会議と民間事業者との間にギャップがある。衛星観測で見たいものが見ることが出来るものの中にギャップがあり、それを埋めていく議論は意味がある。学会会議の議論の範囲をどう定めるが課題である。
- ・異なる分野の専門家の話を聞いて、ブレイクスルーしていくのが理想。
- ・海洋生物関係では、生物多様性の話題提供は可能である。
- ・衛星の実利用や社会実装を考えると、データ駆動型サイエンスを進めることと繋がる。データ駆動型サイエンスを専門としている研究者の話を聞きたい。
- ・関連して、適応策を作る上でもデータをデータベース化する動きがあり、A-PLATでも自治体が進めているがそれにも衛星データが必須である。その観点で適応策を進める上での衛星データの必要性を話してもらうのが良い。
- ・話題提供をする趣旨は、委員に気候変動の研究者が多いので異なる分野での話題提供をいただき、横断的な議論ができれば良い。
- ・委員以外の専門家に話題提供を依頼することも考えたい。その場合にはワークショップ等を開催して皆で議論がよいと考えている。

(2) 学会活動、ワークショップ、シンポジウム

前期までで2件の提言、1件の見解を出してきた。そのフォローアップのための活動方針について議論した。主な意見は次のとおり。

- ・TCFD や TNFD 等を対象に CONSEO のワークショップの一部を学術会議と連携して実施してはどうか。共催は難しいが後援という形はあり得るのではないか。
- ・JpGU やその他の学会でセッションを持つのは良い機会であると考え。幹事会＋河宮委員でユニオンセッションとして提案する。
- ・委員が所属する各学会の大会で衛星関連のセッションを開催する。その際に委員で共通する資料（要旨程度）を作るのが良い。
- ・リモートセンシング学会 11/26-27@山口の学術講演会でTFセッションを設けることを計画しているので、そこに学術会議の活動の発表を入れることとする。写真測量学会もまだ間にあう。祖父江委員が対応する。

(3) 関係省庁との意見交換

関係省庁との意見交換のあり方について議論した。主な意見は次のとおり。

- ・これまでは、4省庁（文部科学省、内閣府、経済産業省、総務省）に出向していた。
- ・今回は、先方からの意見を聞く機会を設けるのが良いと考える。
- ・人事異動も予想され、改めてインプットする必要があるので早めに動くのが良い。
- ・国土交通省の水管理・国土保全局は激甚災害や線状降水帯に興味を持っているので、そこを訪問するのも良い。笠井委員または適当な先生に間を取り持ってもらおう。

(4) 人材育成のための活動についての議論

人材育成について議論した。主な意見は次のとおり。

- ・学術会議の中でリンクするのは大事。学問分野を跨いで、議論をする場があると良い。

次回の小委員会開催は省庁との意見交換の後、リモートセンシング学会の前を目処に開催することとする。

以上